

門遠
號969
卷8



繪本金花詮卷之八

目錄

河並ニ右衛門公義の車 年賀金刀鉄杖の車

河並ニ右衛門密書次寢図

河並年國より西岐音上對面の圖

瑞士絆定の圖

萬刀家士鉄杖次年賀

太江太暖毛支度えづ傳

繪本全花譜卷之八



伊豫波田の西士太に君ふ詠ふる圖
帶刀豫倉へ出陣をひ車

其二

友衛門と氣濁て起てね縛にそ一絃上圖

吸谷草刀傳書代役圖

秋藤清八保代敵て中廢反に走圖

繪本全花譜卷之八

河並ニ右邊門に筆致く奉年賀合掌力詠ゆる事

何方へ秋のひらとす有ふ今宵をうりへあまやどうせよと大中臣臣乃
能宣鈴臣の詠りへごく秋ももをありてへ翁ふの年もえづむひ
モて何時へうき後矢火射りごく其年既非善年也處へうぢも
家城立産の恩念つゝ歎ひながくも斜りて玄武のをやと思惟を凝
九月半旬河並ニ右邊門に近く拓たぬか熟考ある由千代今午十二年十
云も三年の内うら期のとくうる時へ大中臣をへく松風をうと寝食の
向も心代安んじてゆう外れとすくも一しお自筆便宣のばざわら
葉内まぶた向汝母びて女千代波利絶ぬゑひへ河並ニ客ふも身の
領嘗へ何時もあま仕事あらうひ一金波拵ひく年頃のゆゑ

河並三左衛門

密書を寫

圖



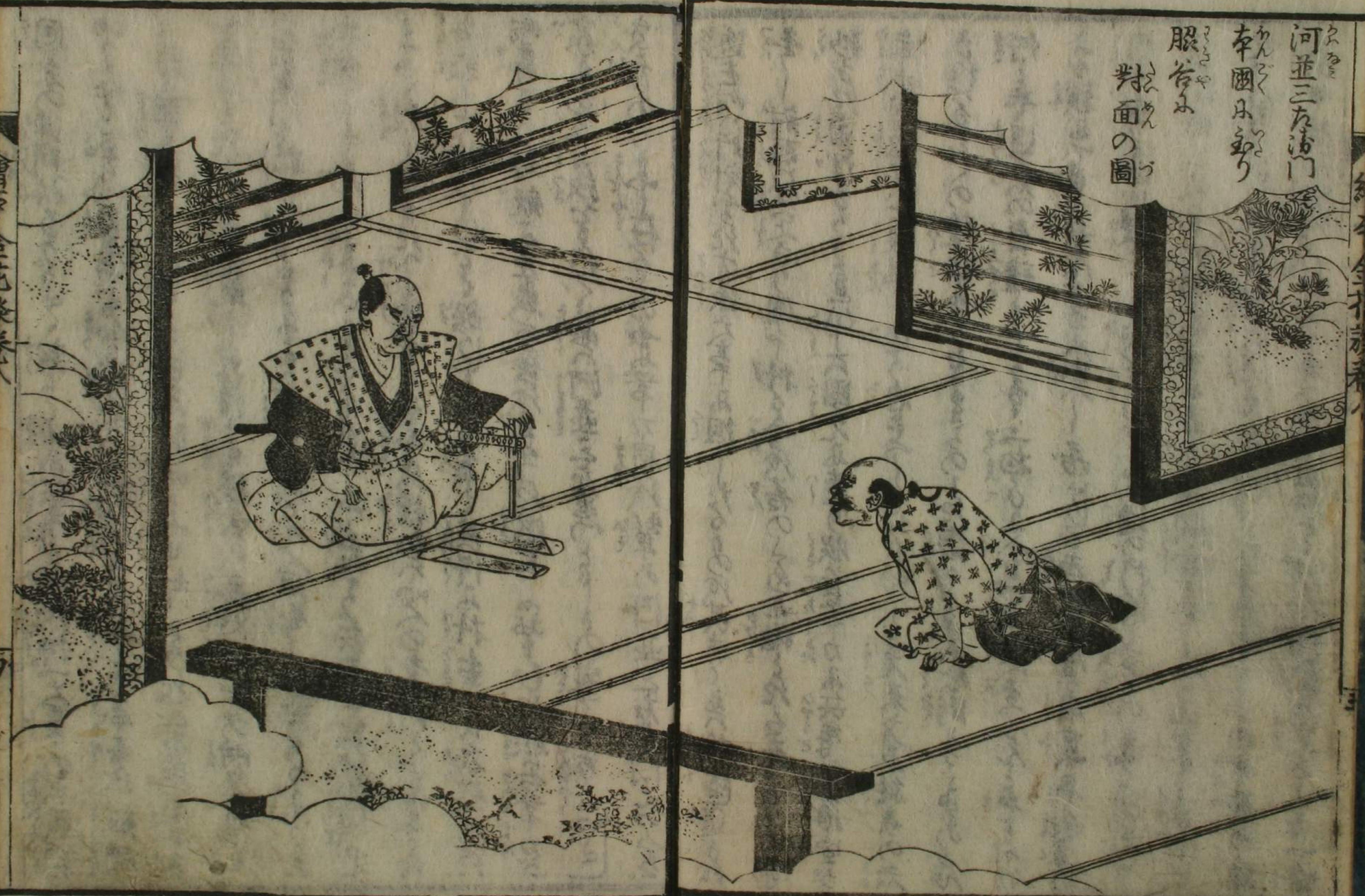
河並三左衛門

かわなべさんざゑもん

幸國ふくくに

服部ふくべ

對面の圖



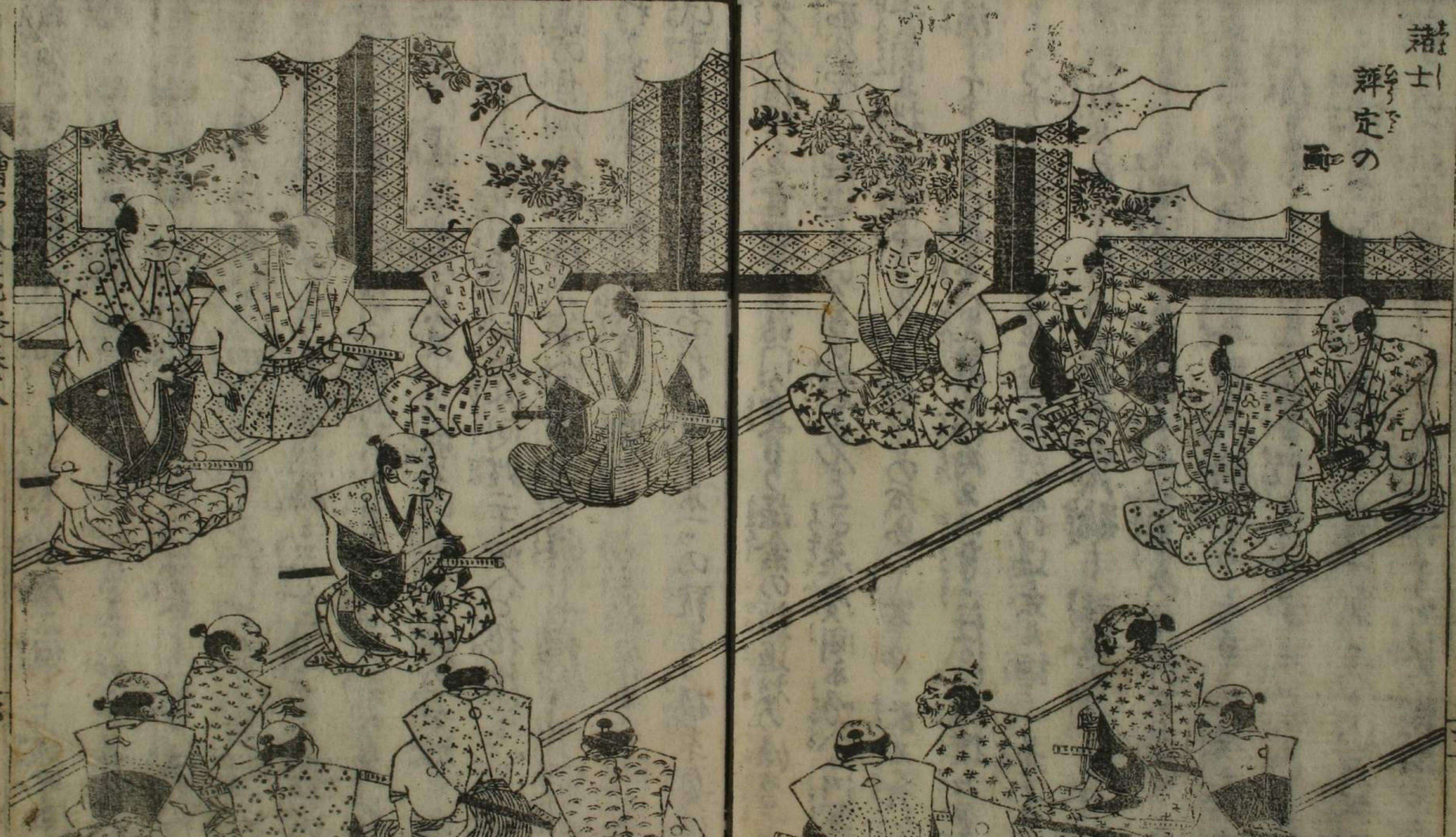
回の連判ねう。うへ封トよふ兵庫が官代押。大軍の只西國
ゆきす、まう。同刃ともひか景(基)あらわげものとそ奉(貢)の延跡
されと懷(懐)み深(こも)て歩る兵庫後(のち)までもかくさうに左(左)妻(妻)子
とまつて方(窓)し。か月(月)下向(向)金(金)出(出)せうとめ(門)を(を)
二右(右)朱(朱)門(門)が(が)日(日)布(布)う(う)と(と)。用(用)あつて(て)風(風)を(を)刀(刀)を(を)うみ(うみ)き
出(出)す(す)て居(居)ま(ま)くも(も)見(見)て(て)を(を)う。兵(兵)庫(庫)た(た)く(く)憤(憤)り
ま(ま)く(く)れ(れ)ひ(ひ)下(下)席(席)あ(あ)る(る)。金(金)惜(惜)む(む)へ(へ)人の(の)事(事)か(か)ど(ど)か
お(お)殺(殺)して(て)捨(捨)て(て)る(る)と(と)燃(燃)じ(じ)と(と)も(も)も(も)其(其)候(候)は持(持)重(重)い(い)る(る)
時(時)節(節)す(す)。却(却)左(左)馬(馬)の(の)夜(夜)目(目)み(み)て(て)激(激)苦(苦)ゆ(ゆ)む(む)眼(眼)若(若)年(年)か(か)
家(家)小(小)う(う)。衆(衆)を(を)内(内)ど(ど)基(基)河(河)並(並)二(二)左(左)馬(馬)と(と)り(り)の(の)密(密)す(す)
文(文)有(有)ありま(ま)は(は)ると(と)み。革(革)刀(刀)肩(肩)付(付)せ(せ)革(革)め(め)河(河)並(並)二右(右)朱(朱)門(門)と(と)る(る)
え來(來)相(相)撲(撲)た(た)雷(雷)撻(撻)雲(雲)右(右)馬(馬)門(門)を(を)裏(裏)り(り)縦(縦)糸(糸)の(の)鉛(鉛)追(追)枝(枝)の(の)後(後)を(を)て(て)そ(そ)の(の)が
西(西)駕(駕)か(か)び(び)註(註)追(追)と(と)ひ(ひ)う(う)ね(ね)や(や)ら(ら)と(と)す(す)遠(遠)度(度)間(間)み(み)入(入)る(る)河(河)並(並)二腰(腰)
去(去)園(園)み(み)投(投)棄(棄)懷(懷)中(中)す(す)こ(こ)の(の)の(の)底(底)出(出)一(一)革(革)刀(刀)が(が)赤(赤)身(身)と(と)近(近)源(源)流(流)
流(流)して(て)や(や)け(け)る(る)某(某)君(君)の(の)湯(湯)附(附)は(は)ま(ま)こ(こ)ほ(ほ)じ(じ)相(相)撲(撲)た(た)重(重)糸(糸)と
や(や)りの(の)す(す)で(で)ふ(ふ)如(如)く(く)い(い)莫(莫)て(て)兵(兵)庫(庫)の(の)達(達)意(意)と(と)是(是)ま(ま)で(で)故(故)年の
兵(兵)計(計)算(算)み(み)存(存)一(一)た(た)う(う)び(び)某(某)君(君)の(の)號(號)註(註)追(追)と(と)は(は)ま(ま)い(い)准(准)今(今)返(返)
忠(忠)仕(仕)とも(とも)鷹(鷹)進(進)志(志)み(み)開(開)公(公)は(は)る(る)上(上)六(六)處(處)室(室)の(の)飛(飛)糸(糸)と(と)て(て)も(も)
更(更)恩(恩)て(て)公(公)に(に)げ(げ)り(り)一(一)命(命)だ(だ)ま(ま)助(助)下(下)も(も)そ(そ)へ(へ)廣(廣)大(大)の(の)恩(恩)也
と(と)す(す)。後(後)方(方)を(を)ま(ま)と(と)共(共)の(の)通(通)車(車)故(故)年の(の)輝(輝)宮(宮)之(之)運(運)急(急)の(の)死(死)ざ(ざ)ま(ま)
て(て)後(後)故(故)且(且)及(及)び(び)な(な)う(う)當(當)力(力)二(二)右(右)朱(朱)門(門)が(が)後(後)波(波)因(因)う(う)ま(ま)じ(じ)且(且)博(博)物(物)
物(物)の(の)正(正)廣(廣)時(時)向(向)。

諸士

舞定の

金花文庫卷八

五



我國のえ老。齡耳頃。向く。也。余が兵庫。廻し。鎧中。あ河。
向く。向く。人。本偶。人の。もく。もろ。兵。今。自。そ。知。ま。と。覺。す。
骨。頸。居。良。有。河。兵。称。義。一。櫛。の。迷。ひ。人。敵。の
常。う。材。木。滿。御。代。の。因。恩。公。私。か。れ。不。忠。と。通。じ。御。の。罪。
又。も。あ。い。唯。今。み。も。せ。よ。先。非。悔。志。を。改。る。事。急。擾。の。寢。と
謂。川。常。刀。み。お。ゆ。て。感。心。せ。と。多。河。並。が。走。り。事。と。せ。と。
知。く。ま。で。渠。不。承。内。ふ。窓。一。亟。そ。の。身。ひ。も。鉢。の。奉。城。か。う。け。は。け
片。鳴。ぬ。十。昂。市。川。後。河。そ。の。外。同。姓。二。千。四。人。を。招。た。し。く。河。並。が。往。
進。の。旨。に。詰。り。な。れ。ば。九。室。の。國。老。在。躍。して。殺。ひ。僕。人。明。の。上。
わ。う。を。ま。け。ま。ハ。鉢。出。兵。庫。を。廢。去。し。文。京。を。覆。ふ。御。一。常。刀。の。日。
ひ。車。名。の。原。の。や。されど。も。又。み。一。の。鉢。あ。う。梶。京。負。清。當。時。

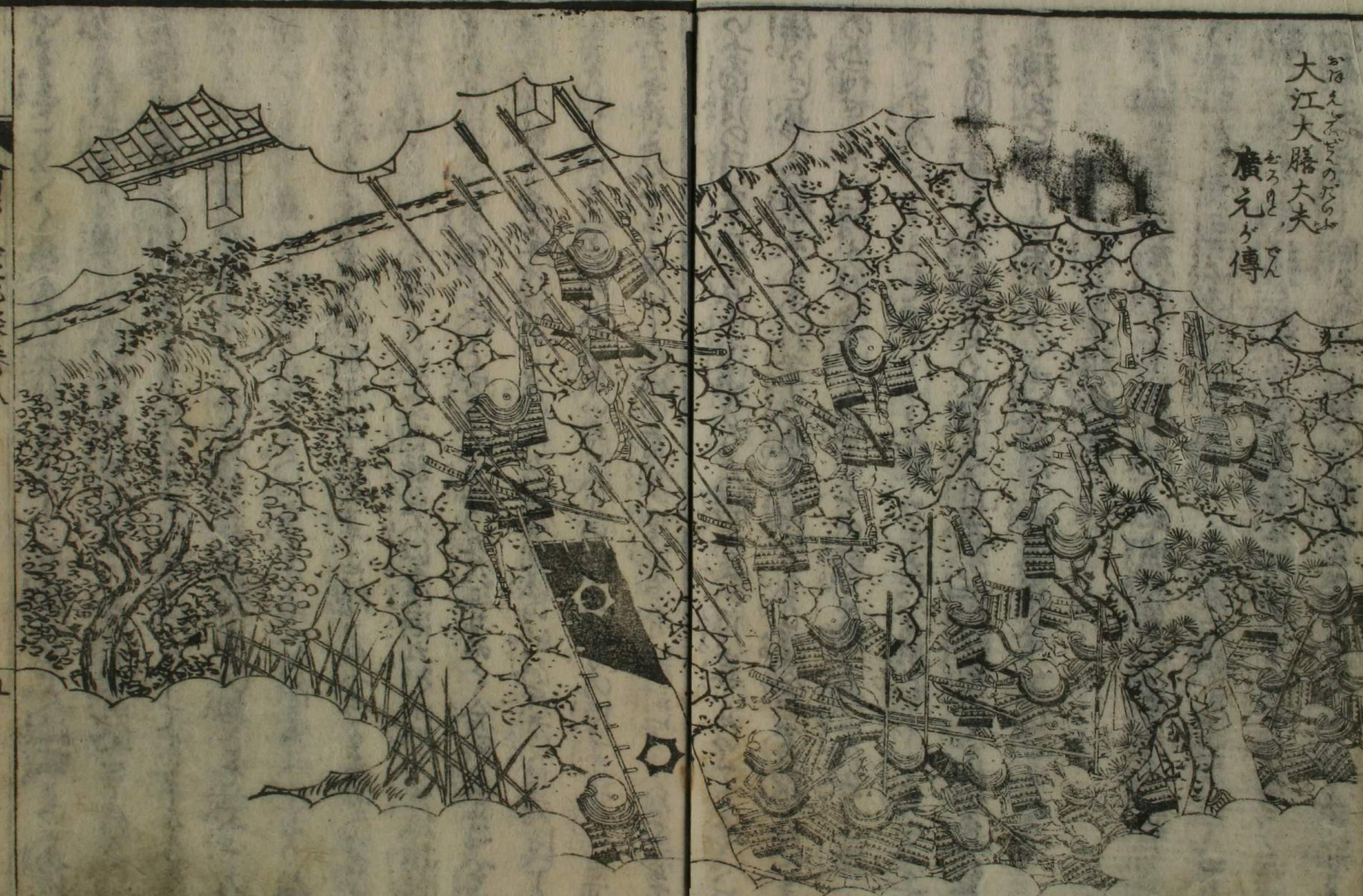
桔。粉。方。の。人。拘。國。懲。の。人。三。多。阿。禪。ひ。の。威。と。名。主。と。云。
り。の。邑。集。兵。底。底。不。國。烹。一。て。下。み。あ。ハ。懲。令。我。く。一。統。日。訴。へ。出。る。と。何。
夏。と。も。近。至。志。不。遂。車。轍。が。ま。の。も。う。是。そ。が。の。煙。ひ。と。こ。す。と。
號。み。ア。れ。く。ハ。一。國。の。傍。臣。兵。底。底。ハ。天。下。の。諸。侯。ア。ミ。ベ。唯。今。該。出。き。承。る。
繫。之。車。主。も。兵。底。底。ハ。後。恩。主。ひ。生。主。の。叔。父。君。我。主。の。あ。ふ。り。主。人。余。
の。仁。ち。り。其。の。飛。名。底。底。ハ。の。よ。下。と。と。て。上。火。刺。も。の。飛。あ。う。雲。
左。の。亦。亦。代。の。最。わ。より。凌。雲。連。判。と。ほ。強。訴。さ。る。ハ。天。下。の。統。の。制。禁。
雅。真。り。く。け。友。の。が。其。一。事。上。薪。モ。ト。理。罪。を。明。う。る。よ。う。と。へ。
罪。み。落。び。た。謂。主。一。あ。れ。ど。も。候。一。萬。茲。の。理。と。ど。も。異。質。の。少。被。り。て。
道。と。ま。け。る。取。割。も。頃。く。ば。あ。つ。と。も。罪。と。る。や。一。又。般。統。み。ね。ぐ。

の事あるとも頗へた程の勝てぬもありて二十字の一回ふ歎へ出る一回又
頑つうとて謝り再び幸の是難い事へづきりのめん自然とれど
お蔵み重るべ敵軍の忍耐と優るゝもをうれし。そのとては爲
某が志士達もともかく兵卒は死の罷兵起へ出るゝ片瀬も是をも
服若氏の論を極めあこまうひよへ足下へゆくがゆうといへおつす
是を究りなきより兵を以て才をもて事外に於て頼むと認めけ承
市川後河進とも某ゆう通じ後金の政勢と極へ云肥沃而後平
六屋ニ郡宗遠蘇院の次安祝義太賤大夫は度えびくを義を
貞清の接遇門を居重とぞとうとつとも唯貞清の接遇も居て
奉ひて詰ね取扱ふ人の大賤大夫度えずりびへ預書きとぞ
當財後金の政勢へ執筆一月更うかして政事公司より是と同寧と
ひの間月の月寧ひち底宗遠うつ大賤大夫の月寧みづるよりぐへ
待にあらば誰よりもあれ常刀の名代とぞり後金みち越え難矣
の生れやくと待うけ途中み在くその轎ふ就て預書を出一徵と
待てお前せうこそ宣へうふ常刀も大なる感ひ一十日の間不
ミ多間ト某も多有うつとやがく自かの侍沢田亦て併が恩政而
み頤ふとおもひあへく内を急すく令め後金(セイキン)をとそれ
を

第一刀家士子新故事

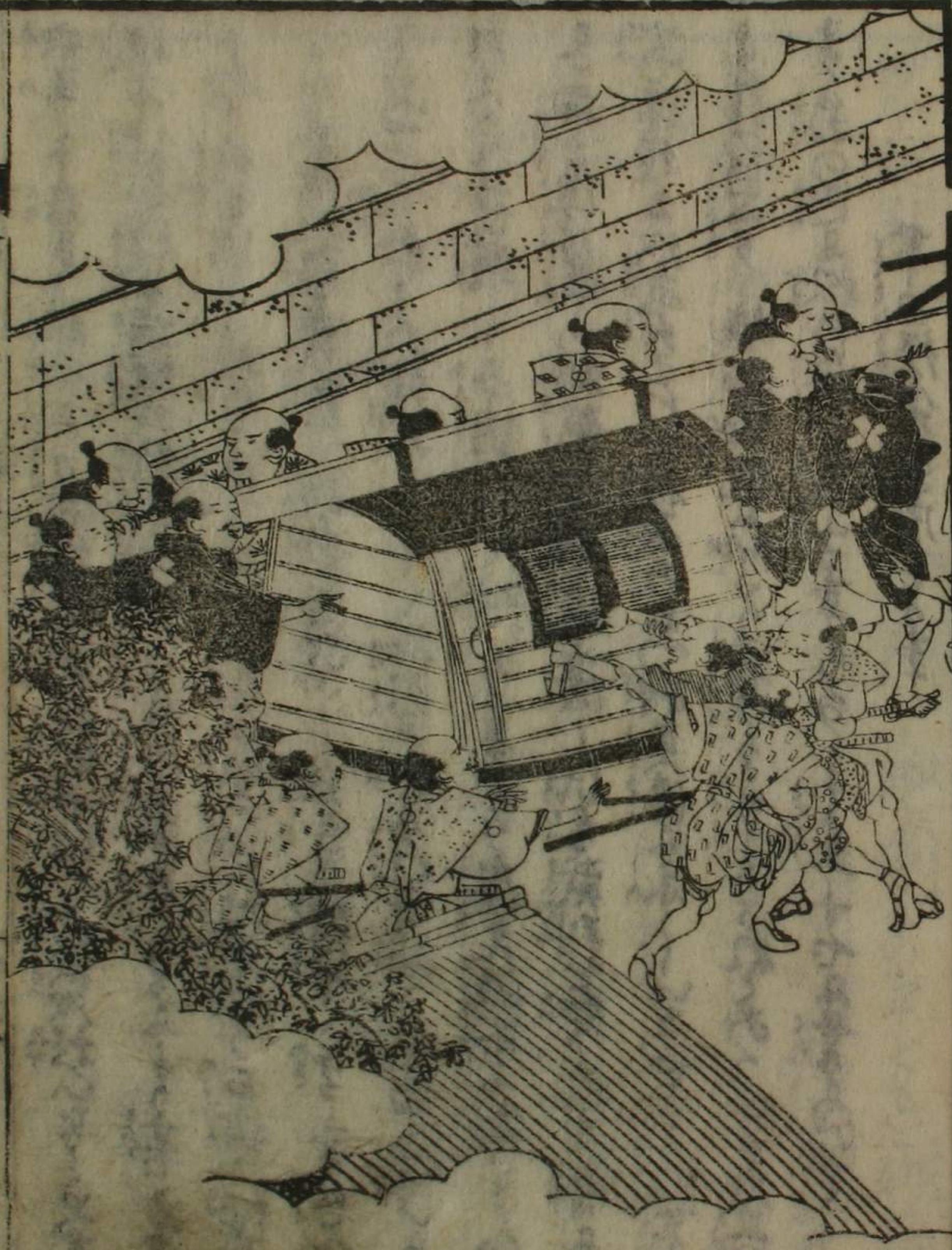
折太勝さかを大に慶うれすと申すの事の軍城天官の皇子ひめのこ昌の
の後ご亂らんあり後白河院の仙宮み在いるは右大臣泰隆宣たつゆり
延のぶが家いえよし家いえ統とうと翻ひ平氏ひらとあ海かいみ切きり院いんめの事こと後ご鳥羽後の御ごじ
幼お帝てい坐すわ一いつ向むか下さの政勢せいせきと總そう念ねんみやもじと奉まつ詔てしり

大江 大膳大夫
廣元こうりん傳



するまことごとく後倉の公裁とする。一間後倉よりは、立られぬる事なく、圍の内を破り、石れ幸の墨跡と紅葉をもれ、其頃の端使裁判の奉みうれざるふゆも博識ありて、公幸みうれ、機びとあらう御院の次官親を大に度えあくと後倉に下りぬ。度えこれより後倉の役かみ車くニキムを頼りぬともあひへど、禁中みゆけじに六十才のとん叔丈内賀ひ大に度因九列小城み姿威徳起、主君へ強きに妻く落ほじと室をもめり、力及ぶぬと合戦属みるよき。歎かふがさく幸代達も唐突せし廣園体の津乃波考へ後倉はと、正月えむる。僅み三百人の兵、率ひて之の天正諸方の役はも若狭某、毛利全族み取ゆて、一處城の首領、織田信玄を仰、謀討堅一に至る。是を

まうたを角へ移すの牆の邊のあくと牆のあくと爲も
あらわすがとく伊達忠次布淡田木馬へ強倉は先へくも度えろ
駕る事ふたこと然を是ふ像く而てゆくふ思惟に不證あ腰を
第して呼びとあへとも考かとより近國のりの強倉もあふ難細
きる事よりほだ政の城外みはまへす後うとせ側の居すと
恒例の先向の斜路大脇をまの牆体が近く進めるその事か
主教の手幕とあくつても瘦く伊達忠次布淡田木馬の在のくも
預文と取扱ひの者ううと牆の中枝へんとさる駕る事か
左若の近侍同ふ駕りあり預文と入世と襟ぐどうあるひへ袖
相合へ却退るを豪勢の仕事よも勤ひて安堵ふ牆の邊は近侍
取あんと競く間をもの方より一人の大男一うる紅付牆の因へ封の
預文と預文の者とぞめくら是もまくら淡田木馬うあへ
うして射手とまくら常力がまくら射手ばるして二面ふ腰の何の
方あても收まうべとまくら没する果して今伊達忠次布淡田木馬一人
大勢取掛つて一トよしんと揃合内赤馬一通のこびりてうげ
まうう度え預文と見あふ封紙のよふ底条友十代ヶ原士服若
常力とよそとまくら左若の近臣と押奈め牆を中宿み下せ大脇をまの徒
士も邊み前後を半圓のへはせを定番井へ警戒め牆をまの徒
やうれえま田舎へ是れ壁夜秋の木の壁の間を教がごとく競争の因ふ
免殺じゆく免縫のよへやくは豪豪脇をまくらしくゆくにまかと
さく車体をこのとた廣え於云とまき返し處を搬けみへて耽じ自ら
世をまへ何のうるそあへ難くねむへ常力が底条友十代ヶ原士
伊達忠次布淡田木馬



伊賀沢田の西士
大ぬ君み

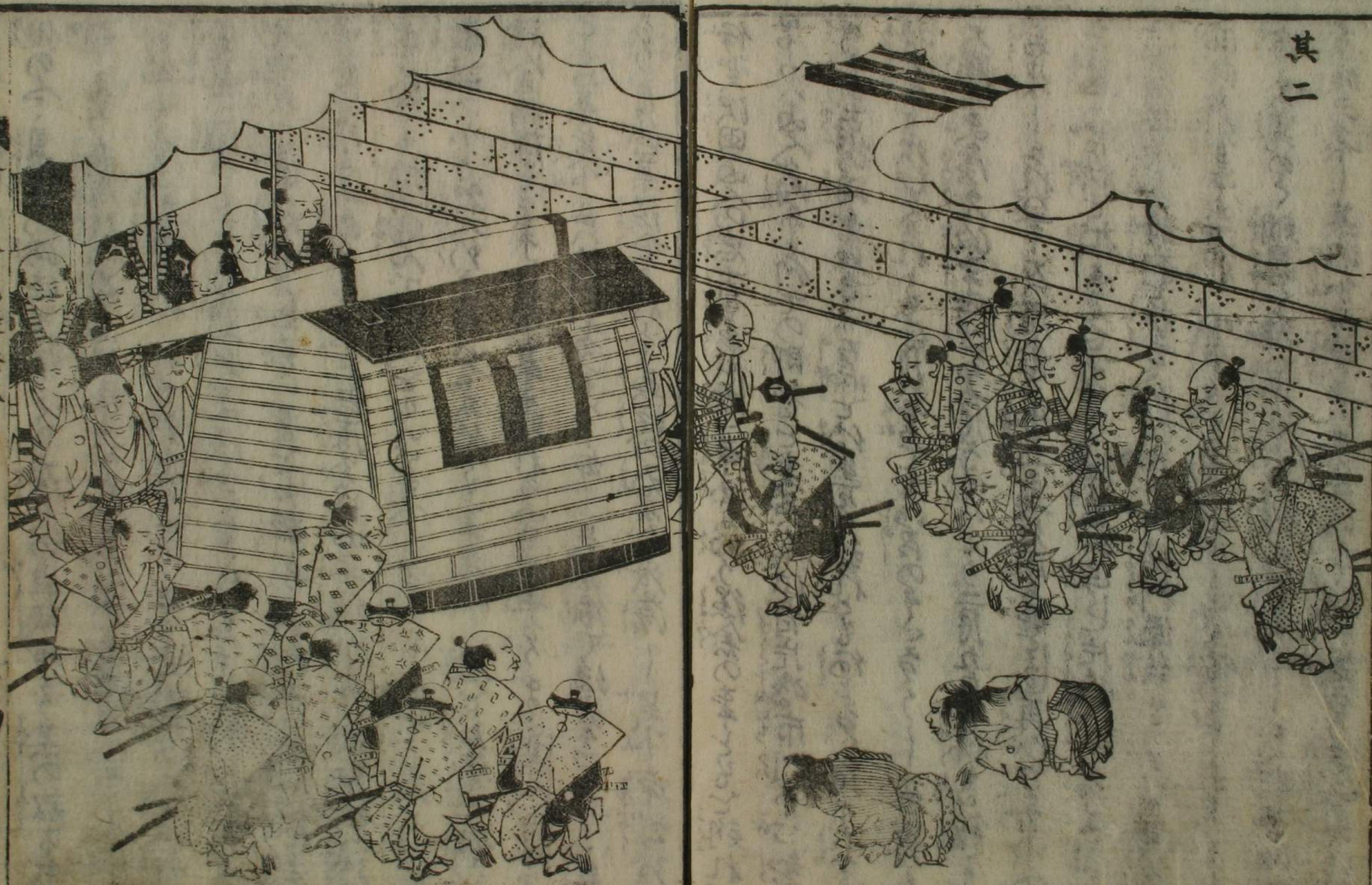
訪え圖

赤馬と/or/孝子の服若帯刀右預文の青銅と/or/上裁が軽ひきし。だ
銀品古物待毛國城法持て出府はんと公裁忍入まうかより某も改
めく移さむをりぬる度えあくまゆび於又通へ被具せう白安公律事
して出府の船主は顧る腰き練の下一方さう程進く所、幸がん
と/or/やく下かせられ轄下とすまく城跡をうられる。極こそあれ、
たえく在は確へ幸園としてゆうう是より度え政筋み生しまひ
かの預ま共川寧の御獄古屋家遠ふ後しにちも裁判と加され、首凡
宗遠種立派支たこれと様承たれ、附貞清が承へ、之をと仰を
貞清の回令く娘坂偏枕み仰う兩次う幸うされとめうけ其
ま、おの内み收め再びれよ幸もろくま年すでみ量みじと
ま

常刀後金と出府もろ幸

伊賀淡田あとの忠士重義と紀幸玉みゆう後金の幸どもとえれば
常刀へあくぬくとての即智と差支へば有片冷市川み告智。
皆も出府の用意なし。石林と仰せらる。然れどものとく月日ちく
樟弓とく紙むぐれとも。月を當ても吉のまことうう一月二月も
大脇たま度え政事次第の月ううふよう。二月九日石林も館引
も來一々れば常刀へ後金み出ちまく。用意をほり再び吉のぐ
と集め石林とねじりて。そのも酒盃がとじした鳴双十角ふ向ひ
は度の出府某難挺と抜けて輕ひき。上へ勝利儀然と。これに度の
お詫み引きてハ理罪の向もわの用ひちがひ。今般の幸兵庫改乃
方みへ究めく御署と揃(某み山)の城を度ともこへら。非み居す
手候あつべ。某非かみ疊うえ過家の危険必定あり。君又貞清其

其二



他の人を見資のゆ法と構つとも度えの重蔵より其の教る事
理より兵庫の旅名ひ絶ふからじるべ某とその中もかゝれて
べしやいある計略と旋して殺害すべしと云ふ友の本意を
裏面の限りとこそおへり某後金もくむりくかしそうく六
片馬氏の迷惑金もかの妻と云辭められ其上の強劫と亦
官家の脅きあひとて兵庫をへ南下後ふ十九歳延訓の故
にぬども始々臨んで相親ともひそひと是下父と成てまつてく
教諭のやどれ入りやまひとみりとも幸ふ能ひ難と云麾と振く
諸人指揮する車ひ是下某も勝れること遙りまことに其人らう
ことと某は下兵格別方アヘヤキ一是は儀て後の車をモヤシ
より自古某後金がく延陵のあみ金波落一是下車壁川
離れく後金小出焉。城池を市川氏が取れ西せり。これ君を大軍の
送る四十弟。曰ひのを貪くおひる安ての教諭を往へ。又嘗ての
ことと某後來おひる。廉略み有ざれどと其後へても侮るの酒盃を
おはし。即日登戻の用を成す。兵庫へも遣戒こゑアレ。やがて幸運
おちきと云強引の色の目がつた。そこで後金を差へよと御殿みはさるが審
あひかまう中筋をみあう。用ひづても立つて。則同月十六日度えの夕
生府の裏で仕け。ましくをかうとて待みたる。又其の大膳大室を備
朝は。年ね崎隱居の後へ兵庫はよきをうと申方。もて他御入
ゆるをぞ友衛のた右ふべさて己が方人をもと付す。更りと入
年寄りと内通の事もあり。と申方。やがての後門より宿院を薦めと被築
と。以後必定宿居する。まくまく申す。去御すと申す。ありや。去林の終りに

卷之三

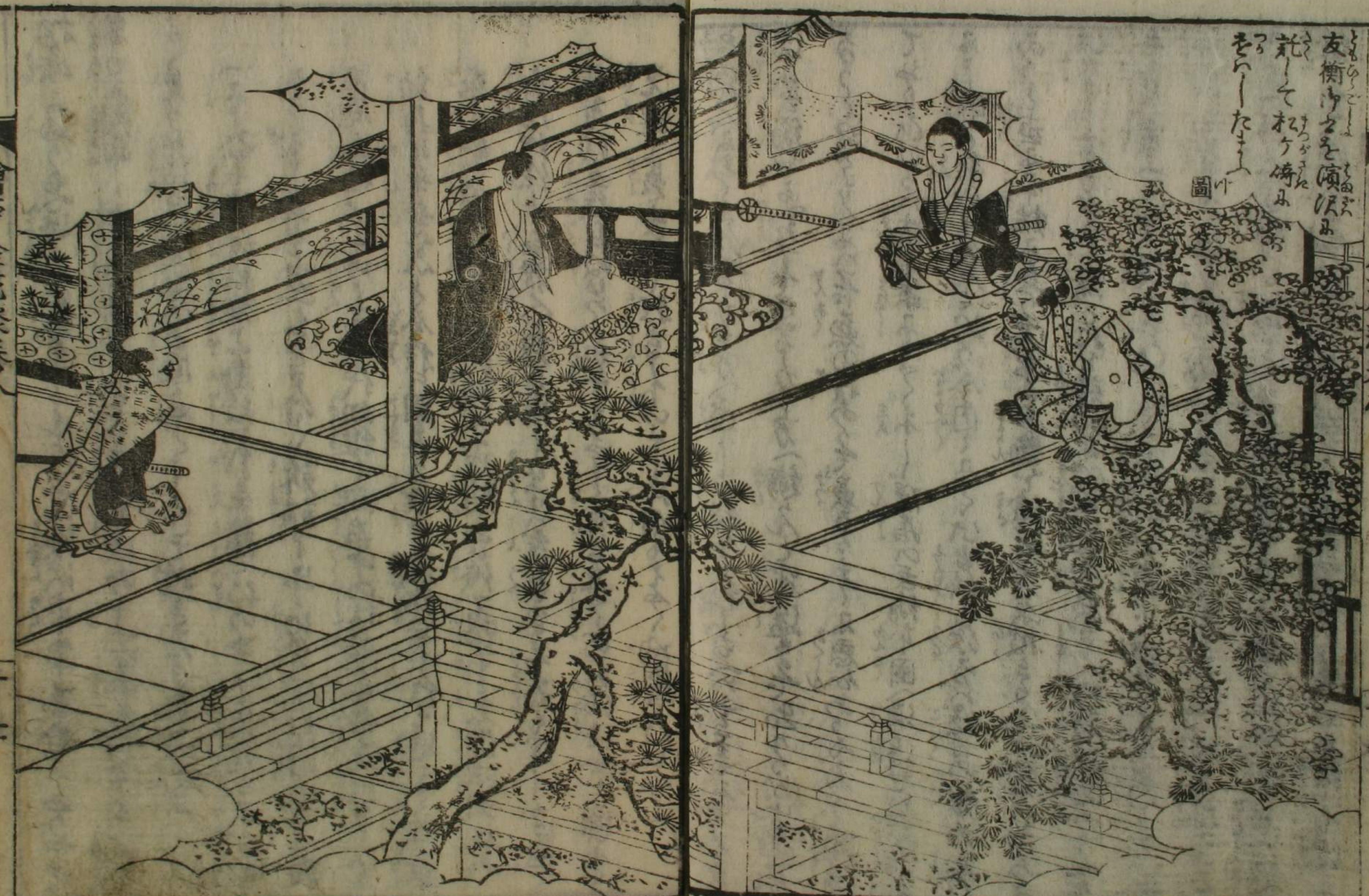
הנִזְקָן

よしむらが方(出)し。内見の後を(出)と。去(出)て用封し。其處を(出)
東北(出)もめを(出)へぬ。あれが勿々中(出)ね(出)。今人友(出)も(出)
奉(出)。義(出)事(出)ト(出)ひで。左(出)事(出)が(出)が(出)射(出)属通達(出)と(出)た(出)も(出)
風(出)謹(出)脇(出)若(出)事(出)力(出)が(出)の頃(出)ヒ(出)通(出)金(出)と(出)る。中(出)通(出)ヨ(出)ヒ(出)も(出)
相(出)色(出)辞(出)遙(出)の生(出)所(出)こそ(出)く。れども兵(出)度(出)久(出)津(出)縁(出)あ(出)
細(出)裏(出)あ(出)て大(出)詔(出)と(出)う(出)計(出)較(出)と(出)う(出)も(出)も(出)
け(出)共(出)事(出)也(出)る。が(出)年(出)頃(出)我(出)對(出)ての(出)事(出)ども(出)。内(出)も(出)密(出)使(出)用(出)ひ(出)る。な(出)へ
告(出)か(出)ど(出)と。身(出)み事(出)も(出)め。中(出)通(出)を(出)んと。お(出)り。れども。左(出)
侍(出)り。ども。全(出)成(出)事(出)き(出)る。奸(出)人(出)。うち。うち。密(出)使(出)用(出)ひ(出)る。な(出)へ
う(出)誠(出)み(出)ま(出)じ(出)る。車(出)と(出)もう。然(出)ふ。敏(出)審(出)演(出)玄(出)畫(出)へ生(出)得(出)
痴(出)漢(出)。あれこの歎(出)子(出)と。ほ(出)と。密(出)小(出)膝(出)下(出)足(出)石(出)れ。汝(出)の(出)そ(出)
お(出)筋(出)人(出)ふ(出)あ(出)さ(出)常(出)刀(出)方(出)。連(出)一(出)是(出)す(出)輕(出)も(出)ひ(出)を(出)著(出)意(出)う(出)と
迷(出)ふ(出)絶(出)と(出)れ。す(出)て。常(出)刀(出)方(出)へ。趨(出)うと。す(出)途(出)まで。出(出)う。う(出)滑(出)
う(出)と。つ(出)どもく。み(出)へ。若(出)意(出)の(出)は(出)う。て。重(出)う。ま(出)ふ。惡(出)い。あ(出)も(出)あ(出)う。隣(出)
て。や(出)り。ひ(出)ける。才(出)某(出)み(出)く。ホー。隣(出)居(出)の(出)通(出)を(出)圍(出)。通(出)。カ(出)べ。兵(出)を(出)
み(出)。脱(出)と。皆(出)付(出)んと。之(出)。今(出)内(出)。そ(出)く。火(出)を(出)放(出)。後(出)日(出)の(出)咎(出)め。され
あり。一(出)常(出)刀(出)方(出)が(出)る。か(出)る。被(出)ま(出)か(出)た。な(出)ゆ。う(出)と
あ(出)と。座(出)み。奉(出)飯(出)み。き(出)う。火(出)を(出)放(出)。お(出)う。ば(出)く。人の(出)證(出)め。ゆう。う(出)
ゆ(出)。お(出)れ。震(出)とも。口(出)説(出)う。口(出)じ(出)と。怒(出)計(出)と。乗(出)ト。浜(出)井(出)す。之(出)悪(出)と。ゆ(出)
ゆ(出)倒(出)の(出)。ゆ(出)き。ゆ(出)げ。ゆ(出)跡(出)と。併(出)。き(出)う。お(出)え。口(出)。口(出)。内(出)陰(出)居(出)の(出)。ゆ(出)
ゆ(出)。御(出)處(出)の(出)。ゆ(出)か(出)へ。ゆ(出)ひ。ゆ(出)下(出)を(出)。ゆ(出)撫(出)て。中(出)底(出)。ゆ(出)ひ。う(出)常(出)刀(出)み。ゆ(出)。ゆ(出)

友衡沙を演次
おもてねの侍ふ

せん一たま

圖



松が嶋みゆうき連れて夏あらんとよみ演次市も中を參みやうやそ
幕刀み對面、キモノの競昇アモル海から生アテムあれ、幕刀ヤアヌ
アモ見るみ経る大歎の去向アモルにて松を取る所の文
トヨヘミ方波何より廢絶シテ云體向ひの來とも先達ラ不名前
キヨヤチキ方一多モリテ訴詔ヤリテヒテ下に傳、モア限
不在也極ムキアリテ安年代幼稚も同家津の仕事とも兵庫改ムヒテ
幼稚津亭旁とく今般ハ國々も尋ム、お詔文年代も近ムと成長
家々蟹島勿論アテ御御車ハ詔先ヒ得不済モニシ僅強勢若松乃
去悟行候ト無罪人を顯る爲、サハ武事モアモ宣アテ國
安度正直後兵候アテ參よりテ宿泊する世との如法事、間ア
先達て若ヒテ御事ヤドアテ片内ももしく内園アテ候ヒシ

二月十六日

とおきまうり偽争ふとあはみもかくひをめをば投捨呼ともみ討うふ是す
されお食火持君のあみふを通の者滅^ムル。却君の害と除んざるが
せあてた大義^{ミツギ}うりとあう御事^{ミツギ}お見仕^{ミツギ}に臣^{ミツギ}すを文ふ
恨^{ミツギ}とはひ斯^{ミツギ}やうよわ^{ミツギ}せか^{ミツギ}ぬ^{ミツギ}まごは^{ミツギ}は^{ミツギ}命^{ミツギ}と^{ミツギ}みゆすを文ふ
恨本と成^{ミツギ}る幸^{ミツギ}の些^{ミツギ}一^{ミツギ}と^{ミツギ}或^{ミツギ}恨^{ミツギ}み^{ミツギ}嫌^{ミツギ}の磨^{ミツギ}源^{ミツギ}教^{ミツギ}ひみやまび
け^{ミツギ}、^{ミツギ}言^{ミツギ}壽^{ミツギ}まじ^{ミツギ}考^{ミツギ}力^{ミツギ}みじ^{ミツギ}ひ^{ミツギ}近^{ミツギ}い^{ミツギ}老^{ミツギ}れ^{ミツギ}ぬ^{ミツギ}と^{ミツギ}考^{ミツギ}め^{ミツギ}が第^{ミツギ}か
左衛^{ミツギ}の貢^{ミツギ}の智^{ミツギ}を^{ミツギ}憤^{ミツギ}り^{ミツギ}某^{ミツギ}を^{ミツギ}仕^{ミツギ}すと^{ミツギ}右^{ミツギ}無^{ミツギ}氣^{ミツギ}み^{ミツギ}え
を^{ミツギ}あ^{ミツギ}を^{ミツギ}終^{ミツギ}ふを^{ミツギ}盲^{ミツギ}べ^{ミツギ}と^{ミツギ}す^{ミツギ}ご^{ミツギ}じ^{ミツギ}て^{ミツギ}御^{ミツギ}り^{ミツギ}そ^{ミツギ}じ^{ミツギ}と^{ミツギ}左衛^{ミツギ}を^{ミツギ}事^{ミツギ}あ^{ミツギ}
ゆゑ待^{ミツギ}ひ^{ミツギ}の時^{ミツギ}の室^{ミツギ}演^{ミツギ}次^{ミツギ}の向^{ミツギ}も^{ミツギ}秋^{ミツギ}陰^{ミツギ}月^{ミツギ}を^{ミツギ}見^{ミツギ}て
たうほハ僅^{ミツギ}ニ十七^{ミツギ}を數^{ミツギ}ひまご^{ミツギ}幻^{ミツギ}と^{ミツギ}つぐも^{ミツギ}寒^{ミツギ}氣^{ミツギ}の未^{ミツギ}若^{ミツギ}て

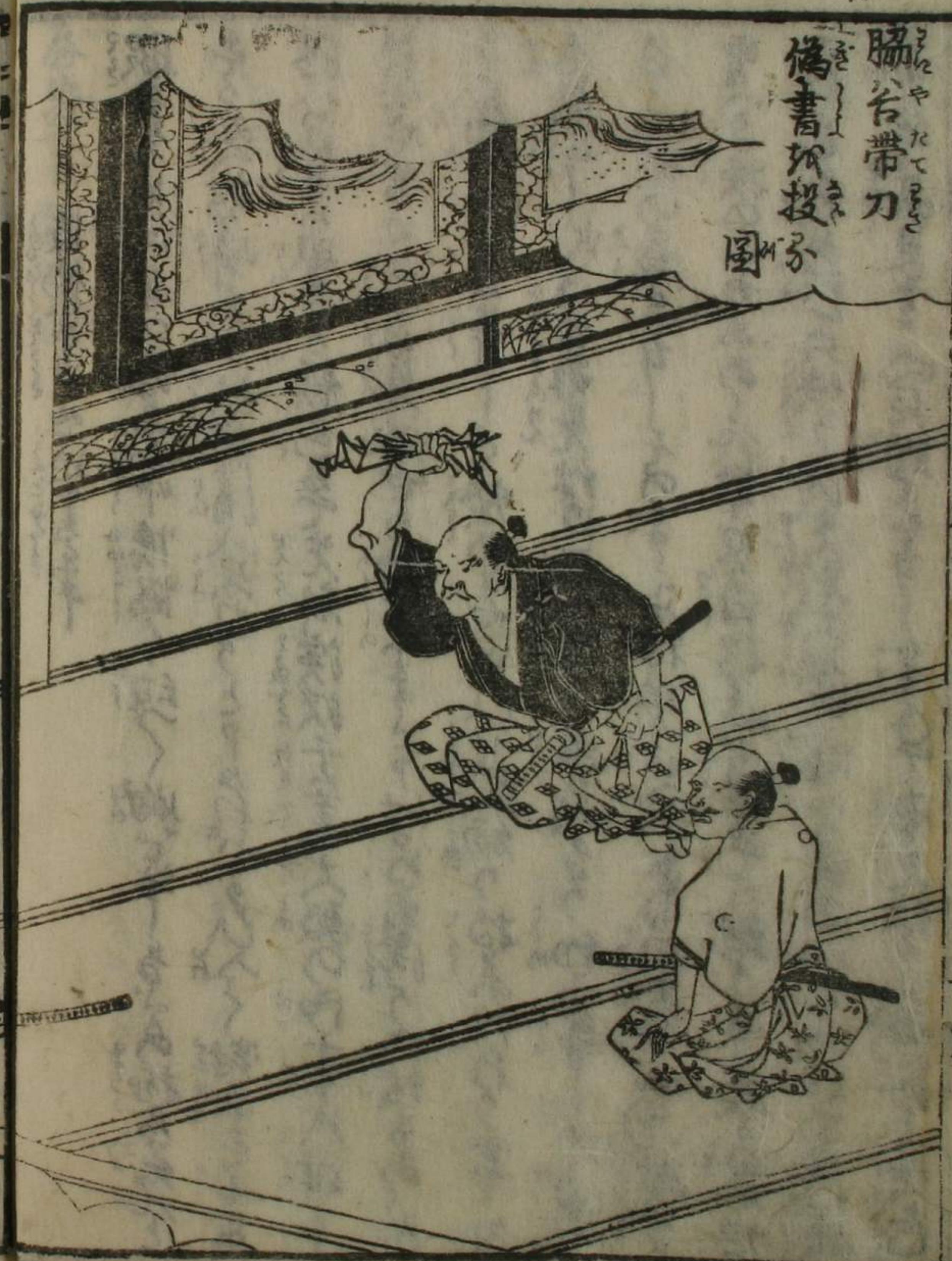
多夜友衡の座右紙をあれど恩黨もまた清公勅諱の因と教へず
今朝の役みもひて六渠とと思石へと清八例よりせば不審と記
すのあつてと應とこれと用ひぬてされども玄蕃がゆうべに附れも
遙か近いふを申す中安うじりやうのまき常力がよみ落すゝにて
恩使の掌摺みへよひ我志一の通せざるのもう獨ひと様く媒とも
城うと最初の去絶み一字もううじ再び一通とあてめ清八が耳は
器と申すもひ予先刻演次玄蕃と仗とうて密と通常力がくえを
ヤードみ玄蕃がゆうほくふ及じ又ふ玄蕃程アリシ油ノ目伏忍び
疾心中を發ひ延付たゞふ常力ふふ来れと宣ふみを清八出續次
うひうち懷中における人の見咎へまほあれ重み嫌を離つて中
度安へぞ近づけり

友衡常力互送書手本

照吾常力の申す中懷惱く印く胸と申すきあ極め申と
ちり如松が峰う秋緑清入れうとやればよび入く對面するふ
清八は感事の感事う顔色を先刻演次玄蕃大殿の傍まへ達
ひらずや常力曰お見ねやう秋葉またやけり若澤うの波もあん
うと初の清公互見仕しゆ懇め申る事ノ基彌うお見仕れう常力
常力へとほお見仕しゆ懇め申る事ノ基彌うお見仕れう常力
うとが何の益もすうのみすみねゆうし林葉が白足下の傍う
宵へと換のひとみあうび常力曰お見仕しゆ懇め申る事ノ基
それとも我を放て快うじ先刻大殿の傍うふのひとみ放て命直
率申て某見まづへと謂生うまひてお見仕るみひと黒色

脇谷帶刀
偽書狐投手

圖



西よりおぞれなき秋葉のよし不裏時を失其優ふ推うてすと仗會所
厚もと云りのすゝ候へ憤つて事ふもやく君の再びお見せでて
至りあひ自比のち密告も聞さる道徳すと往公屋にてアメを洗く
まくおみえう御封して護文書はためのまとん天地を譲のお邊り
その文

西方俊公殺大義丸ち遠路へ赴上京めり。候入奉ふし物よし
家並の事因恵らる何をぬも友千代成長つて候万端を重
相付せ候入奉みひき去兵庫院握不危謹あと宿も有みしハ伍が
く調不も空有えひ西方俊乃ハ有とはくしゆども委々各勤務曲
無座段と一味つてひ候去居たひと事又は對面より及りるども
主方のゐ不宣存不々面去あへては方のひ生り内侍也別紙を取
り合。我萬石京に不ひ源參等外他事多々詔書並て御書等

二月十六日

交御

手刀とへ

あり別紙の文

一 兵庫院等勘定官は毒害死りて友千代と被害の爲め金をま
乳母傳士多の見跡へし處。勘定官調査と判ひて當ての不
竊ふと殺害し

一 某隱居く後藤本兵庫改。勘定官あくをもひととて、櫛屋
同舟のは方近頃を車に

一 かそく水を運利本工へり候宣と聞け。かも油川
育キテトクシ



秋絶清八
源
中筋あ
走る圖

一 近來家の仕事も余り多くない。かく等うて多く増益
少なきとりつて、もひる。左様もく友平代ゐるが、此處に處遇
かる。隠居はすこしも後生を、公樹をめん。現在車をまことに松の木
生すふるま。畢竟才能不の流左方候く。とくに我ふる藤吉
の主徳の不仕い隠居へ過ちて、併て隠居ニ。

一 隠居へ後毛の林小源と定西ひよむるころ、後毛野毛を湯毛瀬
は一株をねえ。不審へ近おもへる毒味せしめば。
往々病氣付お果ひ。畢竟我おとも毒氣はりて行はり
とあ良くせふうりの、我おわ果ひとも不苦いゆとも。至千代が
あらかのう。一方さうて夜令せしめ。僕お我お若京へ還り。
後悔生ひたゞひ。

一 今村若を支援山跡三名參志賀キ左衛門、渡沢市三澤右四人のり
折詔来りやすめひる。何も我おもての流左方候く。隠居世間
も取沙汰も腰ぬけ因物小节ひがる人口が多うじ事よりへか半悟
もて肩くらうど切役もる役アーミリす。めほ清早み
一 何くあるも、まう我おも側み付源。日頃思ひも替玉の増益
少なきが復復多く我おも側み付源。例付無不。僕お我お方々の爲め
まづ者へ隠居と側み付源。がる所へ要事口す。めづら
難斗ひ。支放新サ付ひトーや。

一 金方正也ひ。本相ねまひ。处我本方へ渡部新兵房まう。軍刀證
云の證人佐ト。無事筋アガヒ。向ぶ府。うとく事う務。我本方
事を有。毎事アヒ。外筆紙のみ難そひ矣。金方渡日く。かくも

金丸家譜卷之八
相成と名ふる子を油のみ育ましドたかくせのるめりひ猶在
よゆるくとすやしなよ

日

トモイニ氣が筆刀のそきたをみ放び。毫毛ごうもうみけ方かた書かい。御見はす。君のみこと志し
とも覺おぼく。ひ玉くわむが眼刀がんとうのあつらうるあつらうる。真偽まんぎ。どうぞ。はれて。涙なみだ。逐
まの勿解ぬけき。もなう。さく。今いまは。もはぬ。たま。我われの。筋つなれ。と。
こなう。友とも御ごの。ち。再び。兵ひょう。度ど。近ちか。あく。ト。要いまと。の。ケ。案あわせ。累たまご。こ。き
の。う。の。訴うそ。憇き。セ。七しち條じょう。この。き。ふ。ぬ。く。よ。う。の。ち。七しち條じょう。の。追お訴うそ。の。頼たま
々おと。頼たま。廣ひろえ。の。方ほう。で。出で。一いつ。

繪え。キ。金丸。談だん。卷まき。之の八は後ご

